



平成28年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年10月31日

上場会社名 東京都競馬株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9672 URL <http://www.tokyotokeiba.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 一久  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 江口 真司 (TEL) 03 (5767) 9731  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年12月期第3四半期の連結業績(平成28年1月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年12月期第3四半期	15,051	7.7	4,101	6.4	4,082	6.7	2,575	7.7
27年12月期第3四半期	13,968	5.7	3,855	26.6	3,827	26.7	2,392	44.4

(注) 包括利益 28年12月期第3四半期 2,413百万円(△1.6%) 27年12月期第3四半期 2,451百万円(59.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年12月期第3四半期	9.01	—
27年12月期第3四半期	8.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年12月期第3四半期	80,987	56,512	69.8
27年12月期	82,287	55,104	67.0

(参考) 自己資本 28年12月期第3四半期 56,512百万円 27年12月期 55,104百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年12月期	—	1.50	—	2.00	3.50
28年12月期	—	1.50	—	—	—
28年12月期(予想)	—	—	—	2.00	3.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年12月期の連結業績予想(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,619	6.3	4,943	4.7	4,918	4.8	3,000	16.4	10.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年12月期3Q	287,648,547株	27年12月期	287,648,547株
28年12月期3Q	1,930,968株	27年12月期	1,909,830株
28年12月期3Q	285,728,520株	27年12月期3Q	285,769,033株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページから4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の概況に先立ちまして、当社グループ営業施設にて発生したお客様の受傷事件につきまして、お詫び申し上げます。

平成28年8月21日、東京サマーランドの屋内プールにおいて、お客様が受傷される事件が発生いたしました。被害に遭われたお客様をはじめ、多くのお客様に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたこととお詫び申し上げます。事件を受け、安全管理体制の更なる強化について検討を行い、お客様に安心してお楽しみいただける安全管理対策を整備いたしました。当社グループといたしましても、さらなる安全管理に全社一丸となって取り組んでまいります。

①業績の概況

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは、引き続き売上が好調な南関東4競馬場在宅投票システム(SPAT4)関連への投資を継続して行いました。

また、昨年すでに業績目標を達成している中期経営計画については、大井競馬場3号スタンドの解体撤去と跡地整備など、残された事業計画を着実に推進いたしました。

東京サマーランド内においては、昨年プレオープンした愛犬と一緒に自然との共生が体験できるアウトドア複合施設「Wonderful Nature Village (わんだふるネイチャーヴィレッジ)」を4月にグランドオープンし、安定した収益確保に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は15,051百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益は4,101百万円(同6.4%増)、経常利益は4,082百万円(同6.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,575百万円(同7.7%増)となりました。

なお、当社グループの遊園地事業は、屋外プール営業期間中(夏季)に年間入場者の大半を集客することから、通年の業績のうち第3四半期連結会計期間における売上高及び売上原価の占める割合が著しく高い傾向にあります。

②事業別の概況

セグメントごとの業績は、次のとおりです。

区 分	売上高		セグメント利益又は セグメント損失(△)	
	金額(百万円)	前年同期比	金額(百万円)	前年同期比
公営競技事業	7,798	12.9%	2,565	24.1%
遊園地事業	2,480	△5.3%	△30	—
倉庫賃貸事業	3,301	△1.6%	2,059	2.1%
サービス事業	1,624	43.9%	243	1.4%
セグメント間取引の消去等	△154	—	△735	—
合 計	15,051	7.7%	4,101	6.4%

[公営競技事業]

大井競馬は70日開催され、浦和競馬、船橋競馬、川崎競馬の大井場外発売は計129日、その他各地方競馬の広域大井場外発売が480レース実施されました。

この間、南関東4競馬場在宅投票システム(SPAT4)において、1月11日よりゆうちょ銀行をネットバンク投票サービス対応銀行として新たに加え利便性向上に努めました。

また、投票金額に応じて一定のポイントを付与する「SPAT4プレミアムポイント」においては、南関東4競馬場を中心に関西ほか他地区でもPRイベントを実施するなど、主催者及び関係団体と協力して投票会員数と勝馬投票券売上上のさらなる増加並びにファンサービスの向上に取り組みました。

なお、中期経営計画に基づく大井競馬場3号スタンド解体後の跡地とその周辺の整備については、順調に作業を進めており、約10,000㎡を都市型イベントスペース「UMILE SQUARE(ウマイルスクエア)」として、11月26日、27日に開催する「全国ねぎサミット2016 in TOKYO~特別区全国連携プロジェクト~」よりオープンいたします。

伊勢崎オートレースは63日開催され、川口オートレース他4場の伊勢崎場外発売は延べ241日実施されました。

この間、3月末の船橋オートレース廃止に伴い、伊勢崎オートレース場への船橋所属選手の一部受け入れに対応するため、選手ロッカー等の改修を実施いたしました。

伊勢崎オートレース場内において当社が運營業務を受託し、平日を中心に南関東4競馬などの地方競馬を発売する「オフト伊勢崎」、主に土日に中央競馬を発売する「J-P L A C E伊勢崎」につきましては、来場者及び売上ともに順調に推移いたしました。

また、場内ではオートレースと競馬のコラボイベントを実施し、相互にファンの取り込みを行い、相乗効果による売上の増加を図りました。

以上の結果、公営競技事業の売上高は7,798百万円（前年同期比12.9%増）、セグメント利益は2,565百万円（同24.1%増）となりました。

#### [遊園地事業]

遊園地事業では、東京サマーランドにおいて、ゴールデンウィーク期間より、屋外プールの一部及び人気スライダーの営業を本年も実施し、夏季期間以外の集客に努めました。

園内においては、更衣室・シャワールームをリニューアルしたほか、屋外エリアにベビールーム・授乳室を新設いたしました。これに加え、飲食店及びアトラクションでの電子マネー決済を導入し、キャッシュレス対応とするなど、お客様の快適性・利便性の向上に取り組みました。

これにより売上も順調に推移しておりましたが、8月に発生したお客様の受傷事件を受け、安全管理対策を整備するため、また、台風の影響により、5日間休園といたしました。

その他、昨年10月にプレオープンした「Wonderful Nature Village（わんだふるネイチャーヴィレッジ）」では、4月1日、新たにドッグプールやオートキャンプサイトなどを加えてグランドオープンいたしました。

以上の結果、東京サマーランドの入場人員は72万人で、遊園地事業の売上高は2,480百万円（前年同期比5.3%減）、セグメント損失は30百万円（前年同期はセグメント利益215百万円）となりました。

#### [倉庫賃貸事業]

倉庫賃貸事業では、スペースの有効活用として、勝島地区2階建て倉庫の一部をレンタル収納スペースへ改修し、6月1日より運営を開始するなど、新規顧客の誘致に努めました。しかしながら、勝島地区・平和島地区の大型倉庫においては、事業者間競争の影響などにより一部賃料の減額があり、売上高は3,301百万円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益は補修工事費用の見直しなどにより2,059百万円（同2.1%増）となりました。

#### [サービス事業]

サービス事業では、大井競馬場前ショッピングモール「ウィラ大井」において、地域住民の皆様のニーズに合った店舗構成とするため、3月10日にイタリアンワイン&カフェレストラン「サイゼリヤ」をオープンするなど、店舗の充実に取り組みました。

トランクルームをはじめとする各賃貸施設においては、安定的な収益確保に努めるとともに、オフィスビル「ウィラ大森ビル」では、7月より省エネ改修工事として、順次LED照明への切り替えを実施し環境負荷低減に努めております。

また、昨年7月に連結子会社といたしました空調設備の設計・施工管理を主に行っている株式会社タックについては、当社所有施設での設備工事の内製化に取り組みました。

以上の結果、売上高は株式会社タックの売上を新たに計上したことに伴い1,624百万円（前年同期比43.9%増）、セグメント利益は243百万円（同1.4%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,300百万円減少し、80,987百万円となりました。これは、現金及び預金が1,566百万円の増加などに対し、受取手形及び営業未収入金が632百万円、有価証券が663百万円、建物が656百万円及び投資有価証券が431百万円それぞれ減少したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ2,708百万円減少し、24,474百万円となりました。これは、大井競馬場のスタンド建設工事などの支払いで未払金が2,414百万円減少したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ1,408百万円増加し、56,512百万円とな

りました。これは、期末配当金及び当期中間配当金を1,000百万円実施し、親会社株主に帰属する四半期純利益を2,575百万円計上した結果、利益剰余金が1,575百万円増加したことが主な要因であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の67.0%から69.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年12月期通期連結業績予想につきましては、第3四半期累計期間の実績及び各事業の直近の業績動向、並びに事業環境を踏まえたうえで、前回発表しました予想を修正いたしました。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成25年9月13日)第39項に掲げられた定め等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更および少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。

当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。



4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,353,510	9,920,486
受取手形及び営業未収入金	2,098,869	1,466,325
有価証券	3,709,953	3,046,049
たな卸資産	152,032	103,883
繰延税金資産	109,499	139,619
その他	318,034	556,058
流動資産合計	14,741,899	15,232,421
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	22,236,703	21,580,666
建物附属設備（純額）	5,092,788	5,064,304
構築物（純額）	6,249,455	6,239,059
機械装置及び運搬具（純額）	1,634,181	1,502,570
土地	22,211,332	22,199,260
信託建物（純額）	1,728,881	1,688,791
信託建物附属設備（純額）	203,575	199,698
信託土地	2,174,126	2,174,126
その他（純額）	630,334	551,875
有形固定資産合計	62,161,379	61,200,354
無形固定資産		
ソフトウェア	748,403	727,213
のれん	180,192	151,740
施設利用権	15,453	11,008
その他	11,594	11,594
無形固定資産合計	955,642	901,556
投資その他の資産		
投資有価証券	3,006,659	2,574,928
長期前払費用	365,783	294,836
繰延税金資産	363,918	385,173
長期立替金	528,860	293,811
その他	163,716	104,444
投資その他の資産合計	4,428,937	3,653,193
固定資産合計	67,545,959	65,755,104
資産合計	82,287,859	80,987,526

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	607,765	622,937
短期借入金	—	41,600
1年内償還予定の社債	—	5,000,000
1年内返済予定の長期借入金	115,844	36,100
未払金	2,712,108	297,584
未払法人税等	826,041	755,718
未払消費税等	96,926	348,641
賞与引当金	49,158	112,684
ポイント引当金	99,168	142,804
その他	805,065	551,637
流動負債合計	5,312,077	7,909,708
固定負債		
社債	17,000,000	12,000,000
長期借入金	94,078	19,380
長期預り金	2,196,517	2,079,512
退職給付に係る負債	1,229,430	1,209,935
資産除去債務	388,270	366,057
繰延税金負債	4,829	—
その他	958,194	889,944
固定負債合計	21,871,320	16,564,829
負債合計	27,183,397	24,474,537
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,586,297	10,586,297
資本剰余金	6,857,668	6,857,668
利益剰余金	37,562,026	39,137,727
自己株式	△399,275	△403,927
株主資本合計	54,606,717	56,177,765
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	497,745	335,222
その他の包括利益累計額合計	497,745	335,222
純資産合計	55,104,462	56,512,988
負債純資産合計	82,287,859	80,987,526

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
売上高	13,968,704	15,051,069
売上原価	9,039,806	9,796,719
売上総利益	4,928,897	5,254,349
一般管理費	1,073,688	1,152,783
営業利益	3,855,208	4,101,566
営業外収益		
受取利息	10,896	31,256
受取配当金	16,890	13,110
線下補償料	6,102	6,102
その他	12,033	14,132
営業外収益合計	45,922	64,602
営業外費用		
支払利息	73,831	75,241
その他	156	8,891
営業外費用合計	73,988	84,133
経常利益	3,827,142	4,082,035
特別利益		
保険解約返戻金	—	51,790
補助金収入	35,196	41,343
投資有価証券売却益	136,721	—
特別利益合計	171,917	93,133
特別損失		
固定資産除却損	36,694	—
固定資産撤去費用	136,250	236,665
その他	11,305	—
特別損失合計	184,249	236,665
税金等調整前四半期純利益	3,814,811	3,938,503
法人税、住民税及び事業税	1,360,247	1,333,475
法人税等調整額	62,561	29,261
法人税等合計	1,422,808	1,362,736
四半期純利益	2,392,002	2,575,766
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,392,002	2,575,766

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	2,392,002	2,575,766
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	59,551	△162,522
その他の包括利益合計	59,551	△162,522
四半期包括利益	2,451,554	2,413,243
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,451,554	2,413,243
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	公営競技 事業	遊園地事業	倉庫賃貸 事業	サービス 事業	計		
売 上 高							
外部顧客への売上高	6,906,118	2,619,375	3,353,383	1,089,826	13,968,704	—	13,968,704
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,673	91	—	39,261	41,026	△41,026	—
計	6,907,792	2,619,466	3,353,383	1,129,088	14,009,730	△41,026	13,968,704
セグメント利益	2,068,013	215,644	2,016,044	239,893	4,539,596	△684,387	3,855,208

(注) 1. セグメント利益の調整額△684,387千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「サービス事業」セグメントにおいて、株式会社タックの株式を取得し、連結子会社としたことによりのが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては189,675千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	公営競技 事業	遊園地事業	倉庫賃貸 事業	サービス 事業	計		
売 上 高							
外部顧客への売上高	7,796,425	2,480,825	3,301,011	1,472,807	15,051,069	—	15,051,069
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,895	60	—	152,138	154,094	△154,094	—
計	7,798,320	2,480,885	3,301,011	1,624,945	15,205,163	△154,094	15,051,069
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,565,443	△30,442	2,059,042	243,314	4,837,358	△735,791	4,101,566

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△735,791千円には、セグメント間取引消去△8,613千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△727,178千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。